

# 高速表面欠陥検査装置 「Scantecシリーズ」の紹介

ナガセテクノエンジニアリング株式会社／棕梨康雄

Scantecは、1989年液晶パネルが世の中に出始める黎明期にガラスメーカより液晶用ガラスの検査を高速にできないかとの要求により開発したデジタル画像処理システムである。当時アナログ処理が主流だった装置を、画像アルゴリズムを含めハードウェア化し高速デジタル処理を実現した。以来Scantecシリーズも9世代目になり実績2,000システム以上にのぼる。また、ユーザーニーズにより新たにカラー版も2017年4月リリースする。

## 1 はじめに

Scantecシリーズは、Web(連続物、フィルム、紙、銅版、金属箔など)やBach(枚用品、個別品、カットフィルム、カットガラス、ドラム)のインライン高速表面欠陥検査装置で、お客様の用途や目的に合わせて選べるラインナップを取り揃えている。

- **Scantec8000**(**図1**)

Scantecシリーズ最上位機種で320Mhz(オプ



図1 SCANTEC8000

ション)の高速処理と多彩なフィルタ機能により高精細な欠陥検出可能。

- **Elements II**(**図2**)

Scantec8000の基本機能をそのままに低価格を実現。

- **Websensor II**(**図3**)

Elements IIに標準検査パッケージソフトを載せ検査ラインの早期立ち上げを実現。

- **Scantecカラー**(2017年4月リリース)

カラー入力(ラインセンサ、スキャナ等)された画像をリアルタイム処理し、色による異物、欠陥の検出を可能にした(**図4**)。



図2 SCANTEC ELEMENTS II